

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

病院長名	佐藤 公治
所在地	〒466-8650 愛知県名古屋市長和区妙見町2番地の9
交通案内	地下鉄：名城線八事日赤駅下車 2番出口すぐ バス：市バス妙見町行 八事日赤病院停下車

□ 病院の特徴

当院は、歴代院長が首尾一貫して病院の進むべき方向性を定め、歴史と伝統である救急医療、高度医療、災害救護と国際救援、周産期医療、医療連携、研修医教育などを推進することによって、地域の高度急性期医療を担い地域から信頼される病院へと発展してきました。特に「研修医は病院発展の原動力」との考えのもと、研修医教育には最重点を置き研修医教育指導体制の充実を図っています。

□ 研修プログラムの特徴

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院産婦人科研修プログラムでは、日本でも有数の高度な専門性を有する一流施設と連携し、高い志を持つ産婦人科専攻医が研修するために最適な環境を提供しています。基幹施設である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院は、日本産科婦人科学会の卒後研修指導施設であり、かつ日本周産期新生児学会の基幹研修施設(母体胎児部門)、日本婦人科腫瘍学会の専門医研修施設の認可も受けており、さらに愛知県指定の総合周産期母子医療センターも担っており、周産期、婦人科腫瘍を中心とした幅広い研修が行えます。さらに周産期医療に定評のある日本赤十字社医療センターおよびりんくう総合医療センター、婦人科腫瘍分野で東海地区を代表する愛知県がんセンター、不妊治療において全国から患者を集める浅田レディースクリニック、婦人科内視鏡治療に定評を持つ豊橋市民病院、子宮鏡、内視鏡治療の豊田厚生病院、妊孕性温存癌治療の藤田医科大学ばんだね病院、地域の救急を担う大垣市民病院および友愛医療センターと連携しており、産婦人科のすべての分野でトップレベルの医療に触れることが出来ます。

■ 研修スケジュール(例)

専門研修 1~2 年目

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院産婦人科(周産期、婦人科腫瘍、女性ヘルスケア)

専門研修 3 年目

プログラム統括責任者と相談して、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院産婦人科の専門研修施設群各施設の特徴(腫瘍、生殖医学、腹腔鏡下手術、周産期医療、女性のヘルスケア、地域医療)に基づいたコース例に示したような連携施設での研修



□ 主な連携施設

愛知県がんセンター、浅田レディース勝川クリニック、浅田レディース名古屋駅前クリニック、愛知厚生連豊田厚生病院、日本赤十字社医療センター、豊橋市民病院、友愛医療センター、大垣市民病院、りんくう総合医療センター、藤田医科大学ばんだね病院

□ メッセージ

第一産婦人科部長・産婦人科 PG 責任者/産婦人科 山室 理

「一流に触れて、将来像を描く」

専攻医プログラムは「一流に触れる」をテーマに作成しました。それぞれの分野で一流と呼ばれるドクターに学ぶのは、とても刺激的で意義深いこと。産婦人科医としての将来像が描けるはずですよ。

婦人科では、子宮がんや卵巣がんなどのがん治療に力を入れています。手術件数は年間約 80 件。良性疾患を加えた手術件数は愛知県内の病院でも有数の実績を誇ります。ロボット手術も実施しています。このほか、腫瘍にのみ放射線を照射するトモセラピーも実施。またチャイルドサポートや就労支援などのがんサポートの分野にも力を入れています。



第二産婦人科部長 加藤 紀子

産科は、平成 21 年 4 月に愛知県内で 2 番目の総合周産期母子医療センターに認定されました。リスクの高い母体緊急搬送も積極的に応需しています。また、合併症妊婦など難しい症例を扱うケースも多く、母体の急変時の対応に備え、母体救命処置を学ぶ J-CIMELS 講習会も当院で開催しております。平成 29 年 4 月からは周産期脳卒中センターを開設、最近では、硬膜外分娩も当院麻酔科とともに開始しました。当直勤務のある忙しい職場ですが、人の生命誕生の瞬間に立ち会える喜びは、何事にも代えられないとてもやりがいのある仕事です。

□ 募集要項

・採用予定人数	3 人
・給与/月額	3 年目 平均約 750,000 円/月
・当直回数/月	診療科によって異なる
・当直料/回	診療科によって異なる
・その他	
・応募連絡先	担当者 教育研修管理課 電話番号 052-832-1121 Eメール education@nagoya2.jrc.or.jp

